

# 〈中学校保健体育部会〉

## 研究主題

「生徒の個に応じた学習指導の工夫を通じた授業改善」

－集团的スポーツにおける個に応じた学習指導の在り方－

## 研究の概要

本研究開発においては、都内の教員及び生徒を対象に、保健体育科の学習指導に関する意識・実態調査を実施し、その実態を踏まえ、「集团的スポーツ」の授業研究を通して、生徒の個に応じた学習指導の充実を図るための、授業改善のポイントを示した。

今回、「バレーボール」と「ハンドボール」を題材に、指導内容や指導方法及び学習過程を検討し、オリエンテーション、スキルテスト、グループ編成等を工夫するとともに、課題解決的な学習による授業改善に向けた具体例を示した。

## I 研究の目的

保健体育の学習においては、「技能」「態度」「学び方」の内容など学習指導要領に示された「基礎・基本」をすべての生徒に確実に身に付けさせることが求められ、そのためには個に応じた学習指導を充実する必要がある。本研究では、個に応じた指導内容・方法が明確となっていない「集团的スポーツ」を取り上げ、個に応じた学習指導の在り方を研究することにより授業改善を図った。

## II 研究の方法

### 1 個に応じた学習指導の工夫・改善に関する意識・実態調査の実施

都内の公立中学校の教員及び生徒を対象に、個に応じた学習指導の工夫・改善に必要な基礎データを得るため、保健体育科の学習指導に関する意識・実態調査を実施する。

### 2 研究主題に迫るための手だての検討

「楽しさの充足」を前提としながら、意識・実態調査の結果を踏まえ、「個に応じた学習指導」を行い、「技能」「学び方」について生徒が達成感を味わい、「態度」として身に付くような授業を目指し、具体的な手だてについて検討する。

### 3 研究授業の実施

「バレーボール」及び「ハンドボール」の授業について、課題解決的な学習により学習内容を身に付け、練習したことや作戦がゲームの中で生かされた授業展開を図ることのできるよう手だてを工夫し、研究授業によって検証する。

## III 研究の内容

### 1 個に応じた学習指導の工夫・改善に関する意識・実態調査

都内の公立中学校の生徒及び教員を対象に、「個に応じた指導の充実を図る指導内容・方法の研究開発」に必要な基礎データを得るために、保健体育科の学習指導についての意識・実態調査を実施した。

#### (1) 調査の対象

①教員……都内中学校108校の保健体育科担当者 240人

②生徒……都内中学校14校の第2学年880人、第3学年897人 計1,777人

(2) 実施時期

平成16年8月23日(月)から9月10日(金)まで

(3) 調査内容

①生徒の興味・関心

運動の好き嫌い、体育の好き嫌い、球技の好き嫌い

②生徒の球技の得意・不得意及び授業中の意識

③授業の内容

ア 生徒が求める授業内容(ゲーム、個人練習、チーム練習)

イ 教員が求める授業内容(ゲーム、個人練習、チーム練習)

④学び方

チームの課題への気付き、自己の課題への気付き、作戦や練習方法の工夫、課題解決の方法

(4) 集計結果及び分析

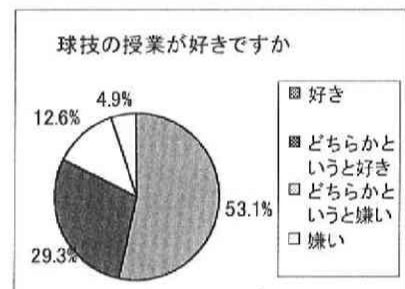
・調査項目は、生徒には体育の授業に関する17項目、教員には個に応じた学習指導の工夫・改善に関する11項目を設定した。

・結果及び分析については、特に研究主題にかかわる項目について示した。

ア 生徒の興味・関心について

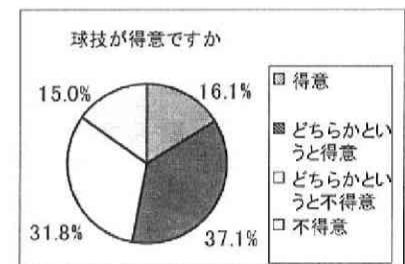
生徒の80.8%が「運動が好き」(「好き」又は「どちらかというが好き」)であり、77.2%が「体育が好き」(「好き」又は「どちらかというが好き」)であった。

「球技」については、82.4%の生徒が「球技が好き」(「好き」又は「どちらかというが好き」)と、いずれも高い割合を示した。



イ 球技の得意・不得意と授業に対する意識について

「球技が好き」が多かったことに比べ、「球技が得意」(「得意」又は「どちらかというと得意」)の割合は53.2%と低くなる。しかし、「球技の授業が楽しい」(「楽しい」又は「どちらかというと楽しい」)は84.3%、「球技の授業に意欲的」(「意欲的」又は「どちらかというと意欲的」)は80.6%と高い割合を示した。



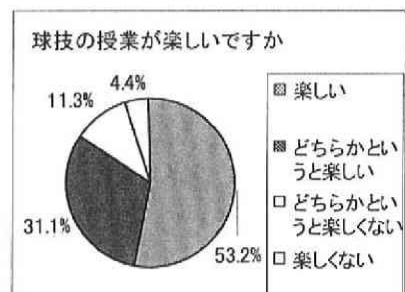
生徒は、球技を得意と感じていなくても、授業は楽しく、意欲的に取り組んでいると自己評価している。

ウ 授業の内容について

◇ 生徒の調査から

生徒が球技の授業で、どのような活動をしたいと

考えているのかを知るために「ゲーム」「個人練習」「チーム練習」についてその順



位を尋ねた。その結果、最も多かった回答は「ゲーム」で 69.8 %、次いで「チーム練習」、「個人練習」であった。生徒は球技では「個人練習」をあまり望まない傾向が見られる。

「球技不得意群」でみると、「個人練習」とする回答が「チーム練習」を上回る結果となり、球技が不得意と感じている生徒は「個人練習」を望む割合が高くなる傾向が見られる。

◇ 教員の調査から

球技の授業で教員が技能にかかわるどのような内容を重視しているかを知るために「ゲーム」「個人練習」「チーム練習」についてその順位を尋ねた。その結果最も重視している内容は「ゲーム」という回答が 46.9 %、「個人練習」が 28.5 %、「チーム練習」が 24.7 %という結果であった。

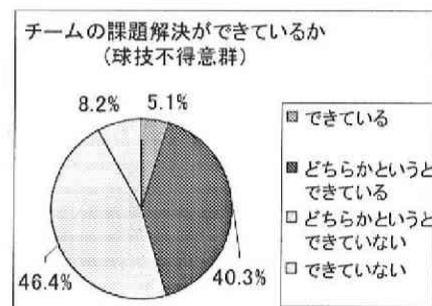
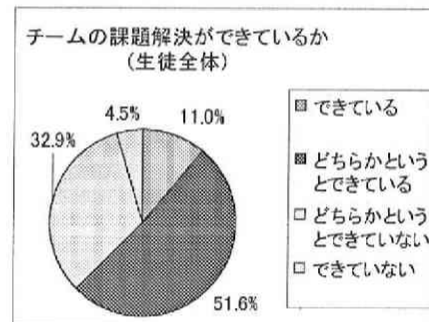
エ 学び方について

◇ 生徒の調査から

「チームの課題を見付けることができるか」という設問に「できている」に 12.3 %、「どちらかというどできている」に 48.3 %が回答している。また、「チームの課題を見付けることができるもの」としては、「チームの話合い」34.1 %、「仲間からの助言」32.4 %、「教師からの助言」27.8 %の順となっており、「副読本などの教材」「学習ノート・カード」「ビデオ等視聴覚教材」「自己評価」「相互評価」の割合は低く、生徒が有効に感じていないという結果となった。

「授業でチームの課題の解決ができているか」という設問に「できている」11.0 %、「どちらかというどできている」51.6 %と回答している。これを「球技不得意群」のみで見ると、「できている」が 5.1 %、「どちらかというどできている」が 40.3 %と減少し、うまく課題を解決することができない生徒が多くなる傾向が見られる。

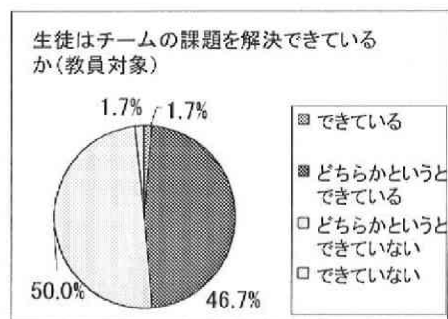
また、「チームの課題解決に役立つもの」として、「チームの話合い」58.6 %、「教師からの助言」52.0 %、「仲間からの助言」48.3 %の順となっており、「学習ノート・カード」は 7.7 %、「ビデオ等視聴覚教材」は 8.5 %と低い結果となった。



◇ 教員の調査から

「生徒はチームの課題をつかむことができているか」という設問に「できている」6.3 %、「どちらかというどできている」53.5 %と回答している。また、「課題をつかませるために利用しているもの」としては、「教師からの助言」「チームの話合い」「仲間からの助言」「学習ノート・カード」を半数以上の教員が利用しているが、「学習ノート・カード」については、生徒の回答と比較すると大きな隔りがある。

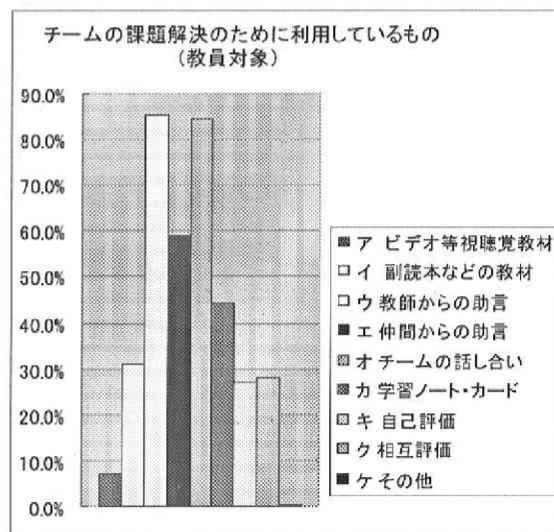
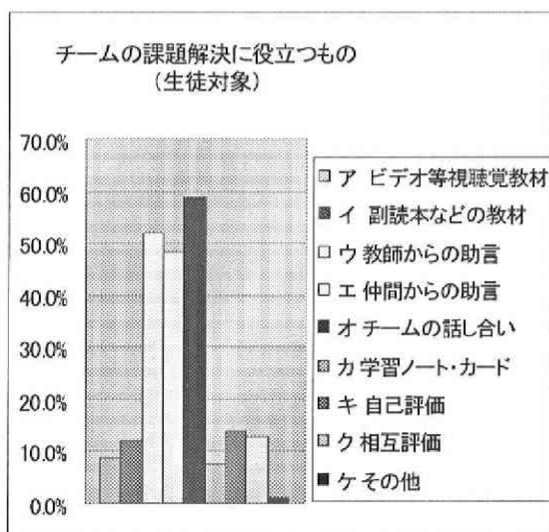
また、「生徒はチームの課題を解決できているか」という設問に、「できている」1.7%、「どちらかというとできている」46.7%と回答している。また、「チームの課題を解決させるために利用しているもの」については、「教師からの助言」「チームの話合い」「仲間からの助言」の他、「学習ノート・カード」(44.2%)や「副読本等の教材」(31.0%)という回答も多く、生徒の回答と比較すると大きな隔りがある。



#### オ 調査のまとめ

調査の結果、以下のことが分かった。

- ・教員は球技の内容のうち「ゲーム」を最も重視する傾向にあるが、「個人練習」「チーム練習」を最重視するという回答も多い。個々の生徒や集団の実態、授業のねらい、対象学年等に応じて重視する内容が変わってくると考えられる。→**学習内容の明確化**
- ・球技の学び方について、全体の約4割の生徒が個人の課題・チームの課題ともに課題を見付けたり、解決したりすることができていないと感じている。「球技不得意群」については、その傾向がさらに強くなる。→**指導過程の工夫→オリエンテーション**
- ・生徒が課題を見付けたり、解決したりすることができていると回答している教員は約半数であることから、学び方を身に付けさせる学習に課題意識をもっていると考えられる。→**評価の工夫**
- ・生徒は課題を解決するための手だてとして「チームの話合い」「教師からの助言」「仲間からの助言」を有効に利用しており、教員も前述の3点を有効な手だてとして生徒に提示している。また、教員が有効な手だてとして提示している「学習ノート・カード」や「副読本等の教材」等を生徒はうまく活用できていない。→**学習環境や指導・支援の工夫**



## 2 研究主題に迫るための手だて

球技の授業において「個に応じた学習指導」を行い、「技能」「学び方」について、生徒が授業の達成感を味わい、「態度」として身に付くよう、以下の手だて等を考えた。

### (1) 学習内容の明確化

球技の指導では、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにしなければならない。戦術的な課題を目標に掲げ、その課題を解決するために個人的技能や集団的技能の指導の中で、ボール操作の技術とボールを持たない時の動きを習得させるようにする。

### (2) 学習過程の工夫

基礎的・基本的な技能の習得が図れるよう、単元のはじめとなかにオリエンテーションとグループ編成を実施し、個に応じた技能の習得を目指した学習過程の工夫をする。

#### 〈オリエンテーションⅠ〉

学習する種目の特性と学習内容を理解し、学習の進め方の確認を行い、ねらい1での主体的な学習が進められるようにする。

#### 〈オリエンテーションⅡ〉

ねらい1での練習の成果・技能を確認し、個人の技能の習熟に応じたグループ編成をする。また、新たに個人やチームの課題を新たに設定することで、ねらい2で課題解決に向けた個人の考え方が生きるようにする。

### (3) 評価の工夫

自己評価能力を高めるために、「評価規準の設定」「振り返りや生徒同士の相互評価」「学習カードの活用」「教師と生徒の相互評価」等の工夫をする。

### (4) 学習環境や指導・支援の工夫

「課題の提示の仕方の工夫」「グループ編成の工夫」「場・ルールの工夫」「学習資料・学習カードの工夫」「教師の言葉かけの工夫」など、生徒が学習を進めていく環境を工夫・改善をしていくことによって、個に応じた指導を図る。

## 3 授業研究

### (1) 中学校第2学年「球技」バレーボールの指導

#### 1 学習のねらい

○自己の能力に適した課題をもって運動を行い、練習やゲームを通して技能を身に付けることができる。  
○チームにおける自己の役割を自覚し、協力して練習やゲームができるようにするとともに、健康・安全に留意できる。

○チームや自己の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を生かした練習の仕方やゲームの仕方を工夫できる。

#### 2 研究主題に迫るための指導の手だて

##### (1) 学習内容の明確化

オリエンテーションの中で前半と後半の学習のねらいの違いや学習材の使い方を理解させることにより、生徒自身が授業に主体的に取り組めるようにする。

##### (2) 学習過程の工夫

2回目のオリエンテーションで、ビデオを使って自分たちのゲームを分析し、課題を考えさせる。また、技能チェック表を使って現在の技能の程度を確認させ、それに基づいてグループ編成をする。アドバイスシートにより、自己の課題解決のための練習方法を示す。さらに、練習方法を分解写真で提示し、自ら練習に取り組めるよう工夫する。

チームごとにルールを工夫させ、技能の程度に応じて楽しくゲームができるようにする。

##### (3) グループ編成の工夫

1回目は機械的に編成し、2回目は技能到達度確認テストの結果を踏まえ、「基礎・基本」、「技能定着」、「技能発展」の三つのグループを選択させる。

##### (4) 学習カードの工夫

最初に個人やチームの課題を設定させ、技能の習得の状況やゲームから生じる新たな課題の記入欄を設ける。また、自己評価を簡潔に記入できるよう工夫し、個人に応じた課題解決のために教師の助言が得られるよう、自由に記入できる質問コーナーを設ける。

3 単元計画 (13時間扱い)

時間	内容	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価の観点				
①	オリエンテーション1	<p>【オリエンテーション1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バレーボールの特性・学習内容について理解を深めていく。</li> <li>○学習カード①(個人用)や技能チェック表の使い方を理解し、有効に活用できるようにする。</li> </ul> <p>☆学習の進め方の確認 (学習資料・技能チェック表の活用の仕方・授業時の注意事項・ネット等の用具の準備、使用方法)</p> <p>☆グルーピング(1回目のチーム決め)</p>	<p>★学習資料の使い方や用器具の使い方を理解させる。</p> <p>★技能チェック表の意味や活用の仕方が理解できるように確認しながら説明する。</p>	<p>(知) 自己に応じた学習の進め方や学習計画の立て方を理解している。</p> <p>(知) 教材・教具の正しい使用方法を理解している。</p>				
②	ね	<p>【ねらい1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仲間と協力して、個人的・集団的技能の習得を目指していく。</li> <li>○チームや個人の課題を設定し、解決のための練習方法の工夫を行い、ゲームに生かしていく。</li> <li>○技能到達度確認テスト</li> </ul>	<p>★バレーボールの特性に触れ、楽しさや喜びを味わえるようにルールを工夫して行う。</p> <p>★自ら課題を設定し、互いに協力し、助言し合いながら練習に取り組むよう支援する。</p> <p>★チームの課題を決め練習内容を選択工夫し学習計画を立てるように助言する。</p> <p>★チーム内で話し合い、協力して一人一人の課題解決に取り組ませる。</p> <p>★チームや個人の特徴や能力に応じて作戦を立てゲームを行わせる。</p> <p>★ゲームを通じて、チーム及び個人の課題を考えさせる。</p> <p>★到達度シートで各技能の確認をさせる。</p>	<p>(技) ルールを守り、練習やゲームができる。</p> <p>(思) 自己のチームの技能に適した課題を設定し、課題の解決に向けた活動をしている。</p> <p>(関) 自己の役割を理解し、仲間と協力し合いながら活動しようとしている。</p> <p>(思) チームの特徴や能力に応じた作戦を立て、ゲームを行っている。</p> <p>(技) 基礎・基本的な技能を身に付け、それを生かした練習やゲームができる。</p> <p>(思) 自己の現状の技能を把握している。</p>				
③	ら	<p>☆簡易ルールでのゲーム</p> <p>☆チームや自己の課題を設定し、解決に向けた練習</p> <p>《個人的技能の習得》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*オーバーハンドパス</li> <li>*アンダーハンドパス</li> </ul> <p>④</p>	い	<ul style="list-style-type: none"> <li>*アンダーハンドサービス</li> <li>*フロッターサービス</li> <li>*スパイク</li> </ul> <p>《集団的技能の習得》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*サービスからのレシーブ</li> <li>*3段攻撃</li> </ul> <p>⑤</p>	1	<p>☆リーグ戦形式でのゲーム</p> <p>☆技能到達度確認テスト</p>	<p>★ビデオを使いながら、ゲーム中の動きなどの注意点を解説し、各自に理解させる。</p> <p>★技能チェック表を活用し、自己の技能を確認させ今後の課題を設定させる。</p>	<p>(知) 戦術について理解している。</p> <p>(思) 自己の技能に応じて、新たな課題を設定している。</p> <p>(知) 自己に応じた学習の進め方や学習計画の立て方を理解している。</p>
⑥	オリエンテーション2	<p>【オリエンテーション2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の練習の成果・技能を確認し、課題の再設定を行う。</li> <li>○学習カード②(集団用)の使い方を理解し有効に活用できるようにする。</li> </ul> <p>☆ビデオを使つてのゲーム内容の確認</p> <p>☆学習カード①(個人用)、技能チェック表を使って、現在の技能の確認と今後の課題の再設定</p> <p>☆学習の進め方の確認 《アドバイスシートの活用の仕方》</p> <p>☆グルーピング(2回目のチーム決め)</p> <p>※各自の能力を考えさせ選択させる。</p> <p>☆試しのゲーム</p>	<p>★ビデオを使いながら、ゲーム中の動きなどの注意点を解説し、各自に理解させる。</p> <p>★技能チェック表を活用し、自己の技能を確認させ今後の課題を設定させる。</p>	<p>(知) 戦術について理解している。</p> <p>(思) 自己の技能に応じて、新たな課題を設定している。</p> <p>(知) 自己に応じた学習の進め方や学習計画の立て方を理解している。</p>				
⑦	ね	<p>【ねらい2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新しいグループで、チームや個人の課題に応じた練習の工夫やゲームの作戦を立てるようにする。</li> </ul>	<p>★アドバイスシートを活用し、課題に応じた練習内容を選択・工夫し学習計画を立てさせるよう支援する。</p> <p>★練習やゲームの中で生じる、個人やチームの課題を話し合い、課題解決に向けての取組ができるように支援する。</p> <p>★各グループの能力等に合わせルールを工夫させる。</p>	<p>(思) 学習資料や仲間のアドバイス等を基にして、練習方法を選択している。</p> <p>(関) 自己の役割を理解し仲間と協力し合いながら活動している。</p> <p>(思) 自他のチームに応じて、ルールや作戦を立ててゲームを行っている。</p> <p>(技) 練習で身に付けた技能をゲームの中で発揮できる。</p>				
⑧(本時)	ら	<p>☆課題解決に向けた練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*「基礎・基本」グループ (パスやサービスの基本技術の習得など)</li> <li>*「技能定着」グループ (サービス→レシーブ→トス等のゲームの中での技術の習得など)</li> <li>*「技能発展」グループ (スパイク技術の習得、3段攻撃など)</li> </ul> <p>☆同じグループでのゲーム</p>	<p>★アドバイスシートを活用し、課題に応じた練習内容を選択・工夫し学習計画を立てさせるよう支援する。</p> <p>★練習やゲームの中で生じる、個人やチームの課題を話し合い、課題解決に向けての取組ができるように支援する。</p> <p>★各グループの能力等に合わせルールを工夫させる。</p>	<p>(思) 学習資料や仲間のアドバイス等を基にして、練習方法を選択している。</p> <p>(関) 自己の役割を理解し仲間と協力し合いながら活動している。</p> <p>(思) 自他のチームに応じて、ルールや作戦を立ててゲームを行っている。</p> <p>(技) 練習で身に付けた技能をゲームの中で発揮できる。</p>				
⑨	い							

⑩	2	※ゲームを行った中で、選択したグループが自己の能力に適しているか考えさせる。	★それぞれの技能や能力に合わせた作戦を立てるように助言する。 ★ゲームを通して、新たに生じてくる課題に気付くように助言する。		
⑪	ま	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○練習の成果を試すゲームを行う。</li> <li>○スキルテスト</li> <li>○自己評価をして今後の活動に生かせるようにする。</li> </ul> </div>	★学習した技能や作戦を生かし、バレーボールの楽しさを味わえるようにルールを工夫させる。 ★スキルテストを行いながら今後の課題を助言する。 ★到達度シートを活用し、チーム及び個人の課題が解決できたかを考えさせる。 ★レポート形式の自己評価カードを記入させる。	(関) 自己の力を発揮し、仲間と協力して楽しくゲームを行おうとする。 (知) ゲームに必要なルールや運営の仕方、審判の仕方を理解している。 (技) 学習してきた技能をゲームの中で生かし、楽しんでいる。 (思) 自己やチームの課題を解決するための方法を理解している。 (知) 自己の学習の成果を把握している。	
⑫	と				☆まとめのゲーム
⑬	め				☆スキルテスト  ☆全体のまとめ

#### 4 評価規準

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)
関心意欲態度	○バレーボールの楽しさや喜びを積極的に味わおうとし、学習の仕方を理解し、進んで活動しようとする。 ○常に安全に留意しながら、積極的に協力し合い、準備や片付けをしようとする。	○バレーボールの楽しさや喜びを味わおうとし、学習の仕方を理解し、活動しようとする。 ○安全に留意しながら、協力し合い、準備や片付けをしようとする。
思考判断	○自己やチームの課題を発見し、それぞれの目標をしっかりと立て、解決に向けての練習やゲーム方法を選択して活動している。 ○ゲームから生じる自己やチームの新たな課題を発見し、それを解決するために練習方法を選択し、意欲的に活動している。	○自己やチームの課題を発見し、それぞれの目標を立て、解決に向けて活動している。 ○ゲームから生じる自己やチームの新たな課題を発見し、それを解決するために活動している。
技能	○自己の現状の技能を理解し、ゲームの中で十分に技能を発揮できる。 ○自己のチームの特徴を生かした戦術を理解し、個人的・集団的の技能を十分に発揮し、ゲームの中で新たな課題を見付けることができる。 ○ルールを守り、勝敗に対しても常に他の模範となる公正な態度で取り組むことができる。 ○課題解決に向かって友達と助言し合いながら活動したり、協力し合いながら活動し、技能を身に付けることができる。	○自己の現状の技能を理解し、ゲームの中で技能を発揮できる。 ○自己のチームの特徴を生かした戦術を理解し、集団的の技能や個人的技能を発揮できる。 ○ルールを守り、勝敗に対しても公正な態度で取り組むことができる。 ○課題解決に向かって協力し合いながら活動し、技能を身に付けることができる。
知識理解	○バレーボールの特性や学習の進め方、ルール、ゲームの仕方、審判の方法を身に付けており、ゲームや審判をすることができる。	○バレーボールの学習の進め方やルール、ゲームの仕方を身に付けており、ゲームをすることができる。

#### 5 授業の結果と考察

##### (1) 学習内容の明確化

セッターがどんな役割で、どんな動きをすればよいのかを分かりやすく説明し、繰り返し練習させたことにより、チーム内でボールをセッター役につなぎ、できるだけ3回で返球しようとする意図が感じられるようになり、3段攻撃の出現率が上がった。

##### (2) 学習過程の工夫

オリエンテーションを2回行ったことにより、自己の技能を把握し、技能の向上を目指して主体的な取組や練習への工夫が見られた。また、同じグループ同士でのゲームでは、ルールを工夫し、意欲的に活動することができた。

##### (3) 学習教材の工夫

アドバイスシート（生徒のつまずきの様子・解決のための方法・練習内容）や技能チェック表を提示することにより、生徒それぞれが課題を積極的に解決しようとすることができた。

##### (4) グループ編成の工夫

2回目のグループ編成を能力別にするにより、それぞれのグループが技能に合った練習を工夫し、意欲的に取り組む姿勢がみられた。単独クラスなどの人数が少ない場合の学習活動への支援の在り方が課題である。

- (5) 学習ノートの工夫  
学習ノートでは、個人の課題とチームの課題を明確にし、達成後に次の課題にステップアップできるように工夫したことにより、主体的に課題の解決が行われるようになった。
- (6) スキルテストの工夫  
スキルテストでは、技能チェック表を活用し、自己評価の基準を例示し、生徒自身が目標を明確にすることができた。

授業後に、「能力別にチームを編成したことに対してどう思ったか」について、生徒にアンケートを実施した。その結果、「よかった」55.6%、「まあまあよかった」44.4%と好意的な結果が得られた。

## (2) 中学校第2学年「球技」ハンドボールの指導

- 1 学習のねらい
- グループ内で教え合ったりして互いに協力し合いながら、進んで練習やゲームをしようとする。(関心・意欲・態度)
  - ゲームを通して自分やチームの課題を明らかにし、その課題の解決の仕方を選ぶことができる。(思考・判断)
  - 必要な技能を身に付け、それを生かしながらゲームを楽しむことができる。(技能)
  - ハンドボールの特性やルールを理解することができる。(知識・理解)
- 2 研究主題に迫るための指導の手だて
- (1) 学習内容の明確化  
すべての生徒が共通の課題でゲームパフォーマンスの向上を目指した学習に取り組むことができるよう、「ボールを前に運ぶ」「シュートのための組み立てを行う」「シュートを行う」「相手の攻撃を防ぐ」の四つの局面について理解させるため段階的に指導する。
- (2) 学習過程の工夫  
ねらい1では、基礎的・基本的技能の定着を目指し、ねらい2では課題解決中心の授業を行う。
- (3) グループ編成の工夫  
ねらい1では、ランダムにチームを分けゲームを行ったが、ねらい2では「基礎・基本」、「定着」、「発展」の三つのグループを設定し、チームごとに課題設定や課題解決達成までの練習を実施しやすくする。
- (4) 学習ノートの工夫  
オリエンテーションに興味をもち、充実させるためにクイズ形式の内容や授業に見通しをもてる内容を取り入れる。また、毎時間のゲームの記録を簡便化し、単元を通した自己評価表を設け、さらに、生徒の学習のつまずきに対応するためのアドバイスシートを入れる。
- 3 単元計画(10時間扱い)

時間	内容	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価の観点
①	オリエンテーション1	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【オリエンテーション1】 ○これから取り組む学習の特性・学習内容について理解を深める。</p> </div> <p>☆学習ノートを活用し、ハンドボールの歴史・種目・用語を確認する。 ☆ハンドボール投げの各自の記録を参考にチームを決める。 ☆チーム編成後、次時のゲームに向けて簡単なルールの確認をする。</p>	<p>★学習ノートで新しく出てきた用語をチェックさせる。</p> <p>★自分のハンドボール投げの記録を確認させる。</p> <p>★練習計画は7～8名のチームで立てさせる。</p> <p>★仲間と協力して、見通しをもった練習計画を立てさせる。</p>	<p>(関) 仲間と協力して進んで学習に取り組もうとしている。</p> <p>(思) 自己やチームの能力に応じた目標や課題を設定している。</p> <p>(知) 学習の進め方、学び方を理解している。</p>
② ③ ④ ⑤	ねらい1	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【ねらい1】 ○チーム力を均等にし、いろいろなチームと対戦しゲームを楽しむ。 ○自分の能力を知るために技能チェックを実施し、ねらい2でのチーム分けの参考にする。</p> </div> <p>☆ハンドボールの基礎的スキルを身に付ける。 ☆チームの課題に応じた練習を行う。 *ペアでキャッチボール *ドリブルをカットしあう *三角、四角パス *シュート練習(速攻、ドリブル等) *対人練習(3対3～4対7)</p> <p>☆ねらい2で行うチーム分けの参考にするため技能チェックを行う。</p>	<p>★個人の技能やチーム力が高まるように練習内容を工夫させる。練習内容は例を参考に考えてさせる。</p> <p>★学習カードを活用し、いろいろな技能に挑戦し、自分の能力を知るとともに個人技能を高めてさせる。</p> <p>★ねらい1は仮のチームであるが、お互いに教え合いながら学習を進めさせる。</p>	<p>(関) 学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>(関) 自他の健康・安全に配慮した活動しようとしている。</p> <p>(思) 課題解決に向けた練習方法を選択したり、工夫・改善している。</p> <p>(技) 必要な技能を身に付け、それを生かした練習やゲームができる。</p>
⑥	オリエンテーション	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【オリエンテーション2】 ○ねらい1で高まった技能や知識を生かし、今後の楽手の特性・学習内容について理解を深める</p> </div>	<p>★オリンピックのビデオを使いながら、個人技能の課題を確認させる</p> <p>★新たにチームを編成し今後の練習計画や課題を立てさせる</p>	<p>(関) 課題を積極的に見付け出そうとしている</p> <p>(思) 個人やチームに適した課題を設定している</p>



1 シ ョ ン 2	<p>☆生徒のゲームやオリンピックのビデオを活用し、個人やチームの課題を確認する。</p> <p>☆ねらい1で行った技能チェックを参考に新しいチームを編成する。</p> <p>☆チームの役割分担を決め、7～9時間目までの学習計画を立てる。</p>		
⑦ (本時) ね ら ⑧ い ⑨ 2	<p>【ねらい2】</p> <p>○技能が同じ程度の生徒同士でチームを組み、チームごとに課題に応じた練習やゲームの作戦を考える。高まった技能に応じて練習やゲームに取り組み。</p> <p>《チームの練習例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*ベアでキャッチボール</li> <li>*チェンジパス</li> <li>*三角、四角パス</li> <li>*2グループに分かれてパス回し</li> <li>*シュート練習(速攻、ドリブル等)</li> <li>*対人練習(3対3～4対7)</li> <li>*ゾーンディフェンス</li> </ul>	<p>★自分のチームの課題を的確につかませる。</p> <p>★課題を的確につかみ練習内容を考えさせる。</p> <p>★練習内容を工夫して個人の技能やチーム力が高まるように工夫させる。</p> <p>★ねらい1より距離やスピードを工夫させ、チームの力に応じた練習ができるよう助言する。</p>	<p>(知) 学習の進め方を理解している。</p> <p>(知) ルールや審判の仕方を理解している。</p>
⑩ ま と め	<p>【まとめ】</p> <p>○練習の成果を試すリーグ戦を行う。</p> <p>☆2部に分けてリーグ戦を行う。</p> <p>☆自己評価、相互評価をして学習のまとめをする。</p>	<p>★リーグ戦を最後まで全力でがんばるよう助言する。</p> <p>★この学習で自己やチームの何が伸びたか確認させる。</p> <p>★学習ノートを活用し、個人やチームごとに評価させる。</p>	<p>(関) 持っている力を発揮しようとしている。</p> <p>(思) 学習活動を振り返り、学習の成果を確認し、課題を整理している。</p> <p>(技) 身に付いた技能を生かしゲームを楽しんでいる。</p> <p>(知) ルールや審判の仕方を理解している。</p>

#### 4 評価規準

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)
関心 意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲームに、意欲的に楽しく取り組もうとする。</li> <li>○チームで教え合ったり励まし合ったりして練習やゲームをしようとする。</li> <li>○審判の判定を受け入れ、従おうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲームに楽しく取り組もうとする。</li> <li>○チームで教え合ったり練習やゲームをしようとする。</li> <li>○審判の判定に従おうとする。</li> </ul>
思考 判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分(チーム)の課題が分かる。</li> <li>○チームや個人の課題解決に合った練習を的確に選んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の助言から、自分(チーム)の課題が分かる。</li> <li>○チームや個人の課題解決に合った練習を選んでいる。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パスやボールキャッチ、シュートが正確にできる。</li> <li>○仲間を生かしたプレーや、仲間との連携プレーをゲームに生かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パスやボールキャッチ、シュートができる。</li> <li>○仲間を生かしたプレーや、仲間との連携プレーをすることができる。</li> </ul>
知識 理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分やチームの特徴を生かすことができる作戦を説明できる。</li> <li>○ハンドボールのルールを理解し、ゲームの運営や審判の仕方を知っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パスやシュートなどの技能の高め方や速攻、カットインプレーなどの集団的技術の行い方を知っている。</li> <li>○ハンドボールのルールを知っている。</li> </ul>

#### 5 授業の結果と考察

##### (1) 学習内容の明確化

パス、キャッチ、シュートなど基礎的・基本的な技能を共通の課題として取り組んだ。ねらい1で集団的技能として「速攻」と「ゾーンディフェンス」を提示し、攻撃や守備の方法を明確にしたことで、生徒の課題意識が高まり早い段階からゲームに生かすことができた。

##### (2) 学習過程の工夫

オリエンテーションを2回実施したことにより、話合いの場面が増えて、自己やチームの課題を明確にすることができた。

##### (3) 学習教材の工夫

アドバイスシートを活用することにより、チームごとの課題を自らの力で解決することができた。

##### (4) グループ編成の工夫

ねらい2では、技能の程度に応じた3グループを編成にしたことにより、グループ内の課題が設定しやすくなり、練習やゲームが効率的に行われた。

(5) 学習ノートの工夫

学習カードを活用することにより、見通しをもった主体的な活動が行われるようになった。技能チェック表を活用したことにより、スキルテストをチームごとに主体的に行うことができた。

## IV 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- (1) 教員及び生徒に球技の授業に対する意識・実態調査を行ったことは、学習計画や学習形態を工夫するための参考資料となった。特に、オリエンテーションで、単元の学習の進め方（①種目の特性や目的、②課題の設定の仕方、③練習計画の立て方、④授業の進め方）を理解させることができた。
- (2) 仲間とのかかわりを重視したグループによる学習を展開することにより、運動の楽しさを味わわせることができた。
- (3) グループ編成を工夫したことで、課題解決的な学習が展開でき、学び方を身に付けさせることができた。また、補充的・発展的な学習も可能となり、その結果、運動に対する意欲・関心や技能の高まりを確認できた。
- (4) 自己評価・相互評価を重視し、学習カードの工夫をしたことにより、仲間とともに課題をつかみ、解決する活動が展開できた。教師も生徒個々への助言を丁寧に行うことができ、教師と生徒のかかわりも深めることができた。
- (5) オリエンテーションにより、種目の特性や目的、課題の設定の仕方、練習計画の立て方、授業の進め方をしっかりと理解させることができた。特に、学習経験のないハンドボールでは、ビデオ視聴を効果的に授業に位置付けることによって、ルールの理解や競技の進め方だけでなく、技能の向上につなげることができた。

### 2 今後の課題

- (1) 「個に応じた学習指導」を展開するために、指導すべき内容、身に付けさせるべき技能や知識を明確にするとともに、生徒の実態に適した評価規準を設定し、指導と評価の一体化を図る。
- (2) 生徒の学びの実現状況に応じて、指導体制を工夫しながら補充指導や発展的な指導の在り方をさらに具体化する。
- (3) 課題解決的な学習を一層推進するために、個の課題とグループの課題を関連付けたり、適切な課題を設定させたりするためのより適切な教師の支援を明らかにする。
- (4) 教師の言葉かけは、重要であり、適時適切な生徒への言葉かけにより、技能面だけでなく、学習態度、意欲にも大きく影響することを自覚する必要がある。